

第5章 オフィスソフトの利用 Power Point

officeppt-5

5-1 操作画面

(1) 操作の概念

パワーポイントは、スライドを作成し、スライドショーとして利用する。ワード、エクセルと異なり、スライドショーのプレゼンテーションのための道具である。

① スライド作成ウィンドウ(標準)



図 5-1 に示すように、スライド作成の標準のウィンドウである。紙芝居のように、発表のスライドを作成する。

図 5-1 スライド作成ウィンドウ

② スライドショー



スライドショーを開始すると、図 5-2 に示すように、表紙からのスライドショーが開始される。順次スライドを送り、プレゼンテーションを行う。

図 5-2 スライドショー

③ スライダー一覧

パワーポイントによるプレゼンテーションの終了後、図 5-3 に示すように、スライドショーの一覧を示すことができる。この一覧表示により、プレゼンテーション聴講者からの質疑応答において、指摘されたスライドを素早く表示し、効率良く応答が可能である。

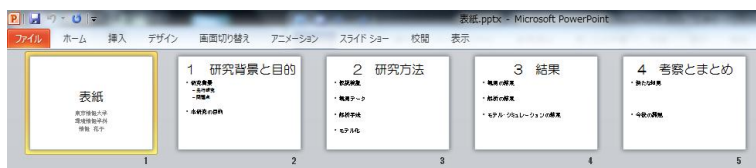


図 5-3 スライダー一覧の表示

また、配布資料として、プレゼンテーションの前に、スライダー一覧を配布されており、一般的なプレゼンテーションの手段となっている。

(2) スライド作成ウィンドウ

ノート PC のような小型液晶画面の PC において、パワーポイントを立ち上げると、図 5-4 に示すように、スライド作成の標準のウィンドウが表示される。スライドを作成、編集するためのウィンドウである。大型の液晶画面では、メニュータブに含まれるツールアイコンも合わせて表示される。

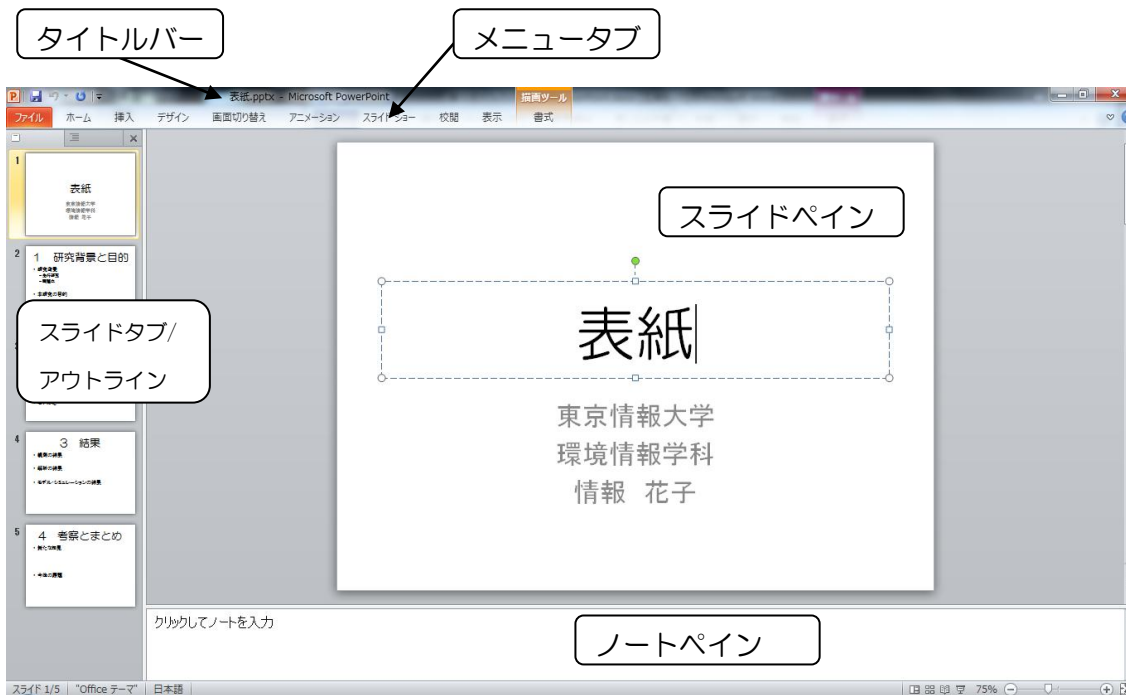


図 5-4 スライド作成標準ウィンドウ

パワーポイント独自の概念として、スライドを作成、編集する作業領域を「スライドペイン」と呼ぶ。また、スライドごとのメモを記録する作業領域を「ノートペイン」と呼ぶ。

(3) タブとリボン

オフィス 2007 から、パワーポイントを含め、オフィスの操作概念が大きく変化した。操作のツールがリボンに収納され、それぞれのツールをまとめたタブが表示される。ユーザごとに、タブとリボンの編集が可能である。

タブとリボンの表示は、〔Ctrl〕 + 〔F1〕 をクリックすることで、図 5-5 に示すように、タブのみとタブとリボンの表示を選択することができる。

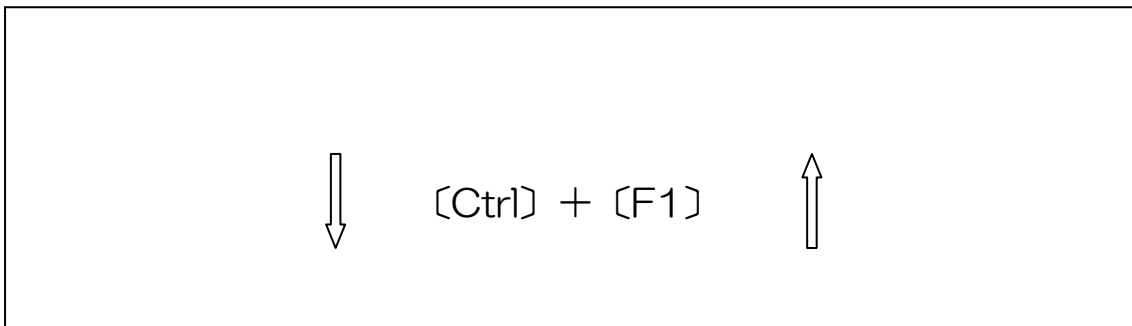


図 5-5 タブ+リボン表示からタブのみ表示への切り替え方法

① 「ホーム」タブとリボン

図 5-6 に「ホーム」タブのリボンを示す。ワード、エクセルなどのオフィス文書の作成に必要な編集機能であり、パワーポイント独自のツールはない。

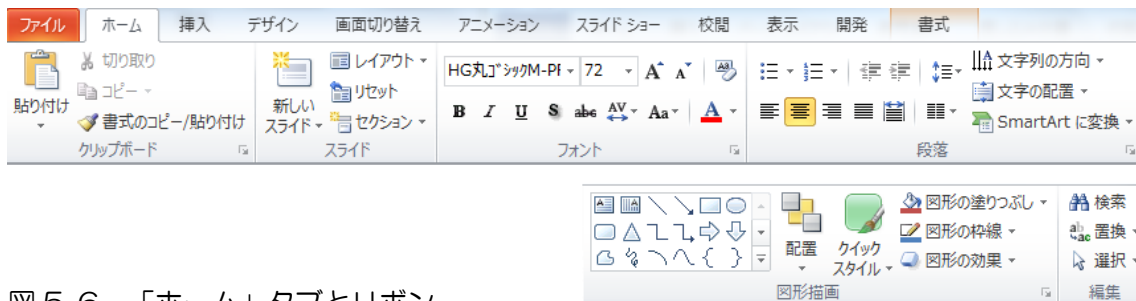


図 5-6 「ホーム」タブとリボン

② 「挿入」タブとリボン

図 5-7 に「挿入」タブのリボンを示す。「ホーム」タブのリボンと同様に、表、図、クリップアート等の挿入の編集機能である。「スライド番号」の挿入が、パワーポイント独自の挿入機能である。また、プレゼンテーションのため、「メディア」ツールとして、「ビデオ」と「オーディオ」が用意されている。



図 5-7a 「挿入」タブとリボン



図 5-7b 「挿入」タブとリボン

③ 「デザイン」タブとリボン

図 5-8 に「デザイン」タブのリボンを示す。「ページ設定」あるいは「スライドの向き」により、標準的な PC を利用したスライド以外のページ設定が可能である。パワーポイントの編集機能を利用し、ポスターの作成などに利用可能である。また、スライドのテンプレートの選択が可能である。



図 5-8 「デザイン」タブとリボン

④ 「画面切り替え」タブとリボン

図 5-9 に示すように、「画面切り替え」のツールが、これまでの「アニメーション」タブから独立して設けられている。スライドの切り替えを、アニメーションのように行う機能であり、プレゼンテーションに好印象を与える。

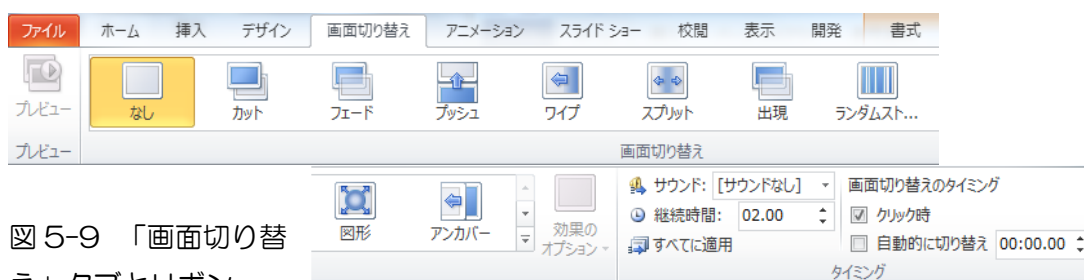


図 5-9 「画面切り替え」タブとリボン

⑤ 「アニメーション」タブとリボン

「アニメーション」タブに用意されたツールは、スライドショーの中でパーツの動作を設定するためのツールである。前出のスライド単位の画面切り替えと異なる。図 5-10 に示すように、パーツの動作を指定する「アニメーション」では、マウスをクリックすると動作したり、予め設定した時間で動作したり、動作の設定が可能である。アニメーションを付加したスライドは、配布資料では異なる表示となるので、注意が必要である。また、アニメーションに凝り好き、プレゼンテーションの内容がおろそかにならないように、設定はほどほどにすること。

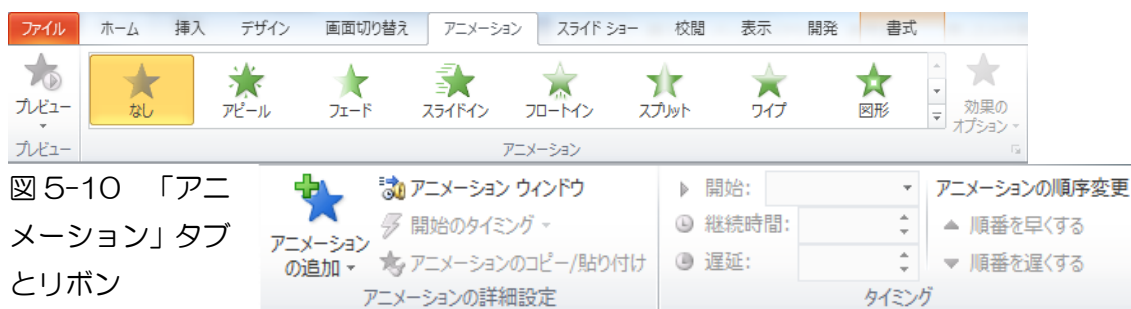


図 5-10 「アニメーション」タブとリボン

⑥ 「スライドショー」タブとリボン

図 5-11 に「スライドショー」タブとリボンを示す。これらは、パワーポイント独自のツールである。「スライドショーの開始」からスライドを開始する。設定の中のユニークな機能としては、「ナレーションの録音」により、ナレーションを録音するとともに、自動再生により、無人のプレゼンテーションが可能である。また、リハーサルの機能を利用すると、個々のスライドの投影時間が記録され、リハーサル通りのプレゼンテーションが可能となる。

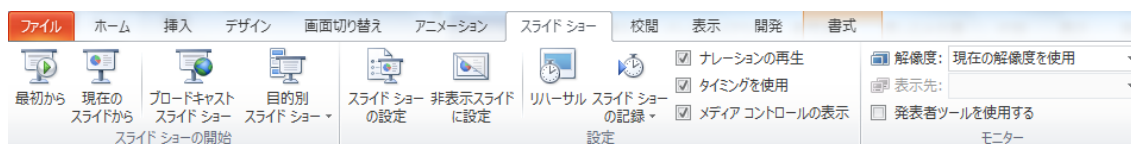


図 5-11 「スライドショー」タブとリボン

⑦ 「校閲」タブとリボン

図 5-12 に「校閲」タブとリボンを示す。「文書校正」、「言語」、「コメント」のツールは、オフィス 2010 共通の機能である。

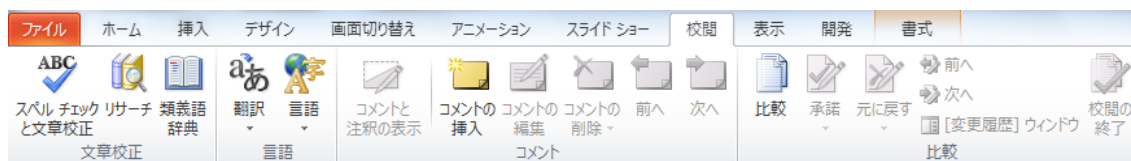


図 5-12 「校閲」タブとリボン

⑧ 「表示」タブとリボン

図 5-13 に「表示」タブとリボンを示す。「プレゼンテーションの表示」は、パワーポイント独自のツールであり、スライド作成から、一覧、スライドショーの実行、スライドマスター、配布資料マスター、ノートマスターなど、パワーポイントの一連の機能が凝縮されている。また、表示のツールを利用すると、スライドページのルーラー、グリッド線、ガイドなどスライドの編集において、入力文字、図などの位置を統一することができる。

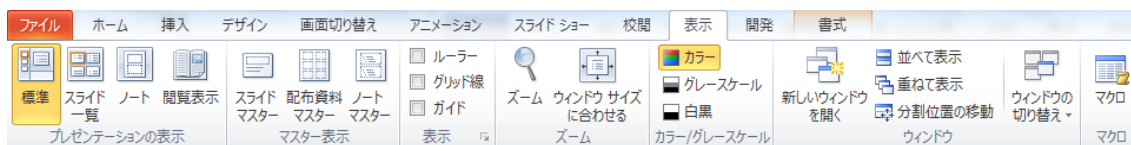


図 5-13 「表示」タブとリボン

⑤ 「開発」タブとリボン

このタブは、オフィス共通機能である。図 5-14 に示すように、Visual Basic、マクロ、旧オフィスで提供されていたツールなどがまとめられている。

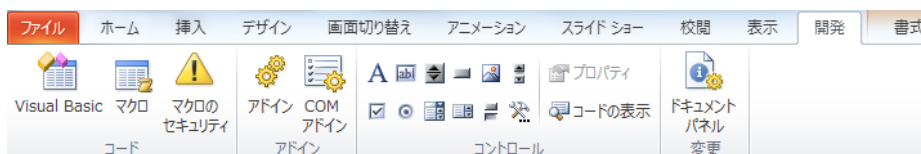


図 5-14 「開発」タブとツール

なお、「開発」タブは標準では表示されない。「開発」タブとリボンを表示するためには、「ファイル」タブから「オプション」、「リボンのユーザー設定」から「開発」タブのチェックボックスを ON とする(図 5-15)。

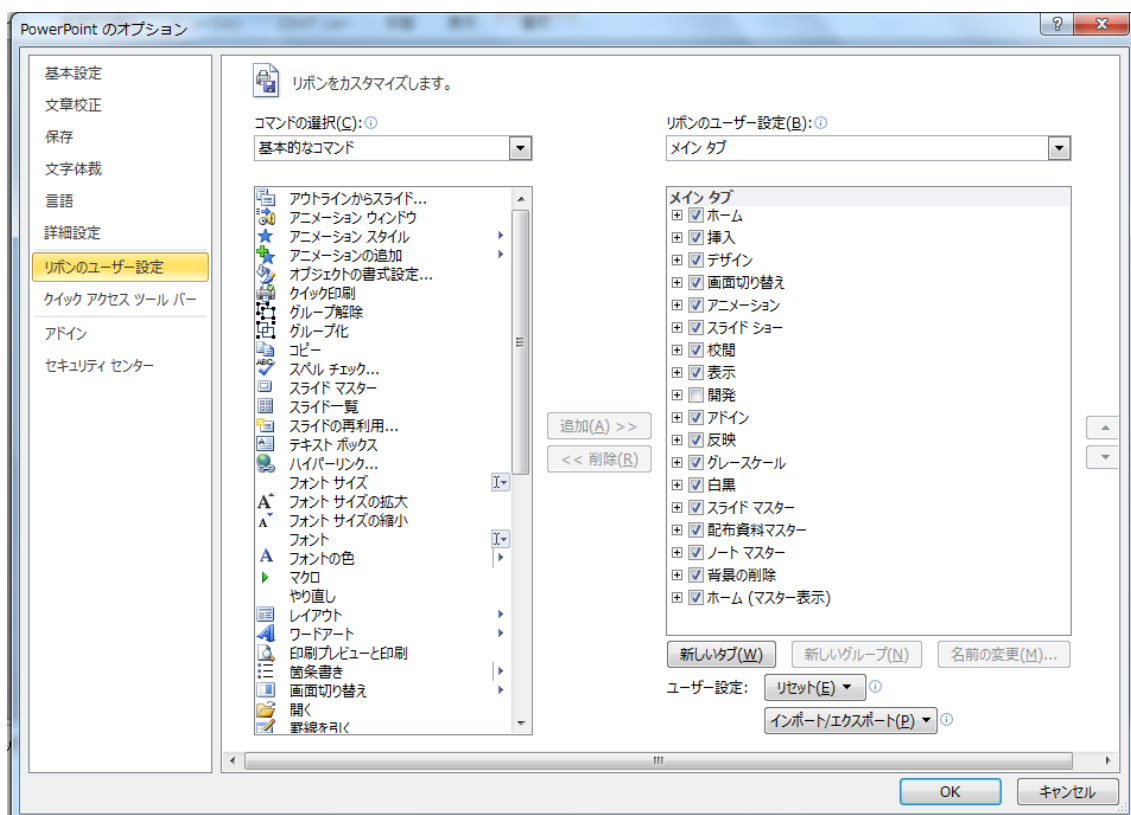


図 5-15 「開発」タブとリボンの表示方法

⑥ 「書式」タブとリボン

図 5-16 に「書式」タブとリボンを示す。このリボンのツールは、オフィスソフト共通の機能である。

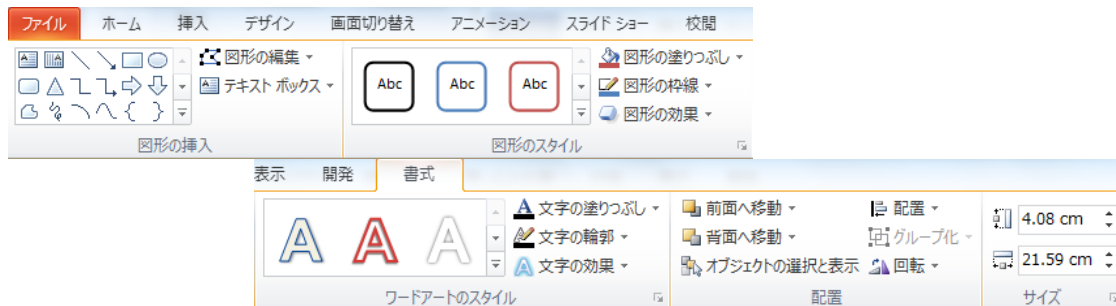


図 5-16 「書式」タブとリボン

(4) 編集から手持ち資料まで

パワーポイントによるプレゼンテーションが一般的となっており、パワーポイントにより作成した配布資料の配布、ノートによる発表原稿など、プレゼンテーションに深く組み込まれてきた。図 5-13 に示した「表示」タブとリボンの一部を、改めて、図 5-17 に示す。「標準」の画面レイアウトは、図 5-1 に示したように、パワーポイントを起動したときの初期画面レイアウトである。



図 5-17 「表示」タブの「プレゼンテーションの表示」と「マスター表示」

① スライド一覧

これは、プレゼンテーションに利用するスライドの一覧を表示するツールである。図 5-18 に示すように、プレゼンテーションを終了し、質疑応答に入るときに、スライドの一覧を示すことで、効率よく質疑応答を進めることができる。

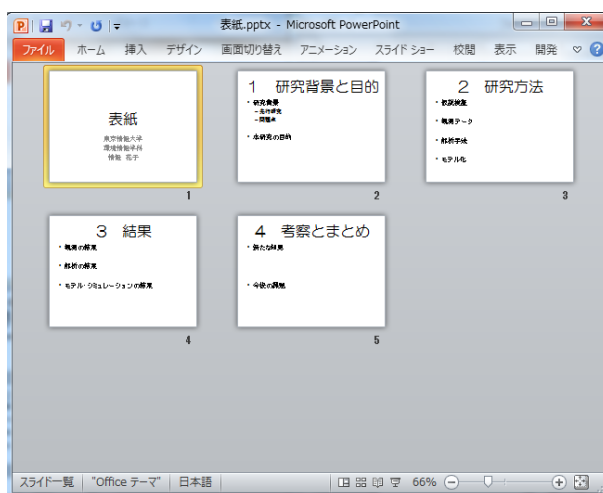


図 5-18 スライド一覧表示

② ノート

図 5-19 に示すように、スライドに対応した発表文を記入するノートと合わせて表示する機能である。

ノートの作り方としては、どうしても発言しなければならないキーワードを並べる方法が一つである。文章を書きだすと、文章に頼り、棒読みの危険性がある。

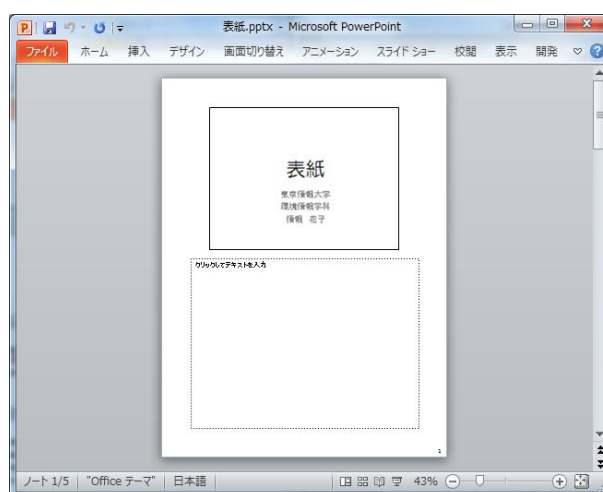


図 5-19 スライドとノート表示

③ 閲覧表示

図 5-20 に示すように、プレゼンテーションと同じ画面が表示される。これは、PC 上において、発表内容の閲覧を目的に用意されたツールである。

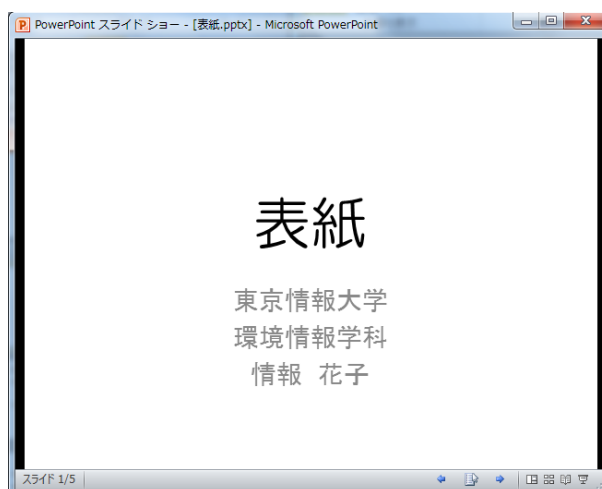


図 5-20 閲覧表示

④ スライドマスター

これは、スライドのレイアウトのテンプレートである。「表示」タブの「スライドマスター」をクリックすると、図 5-21 に示すように、「スライドマスター」のタブとリボンが表示される。

スライドマスターとは、一連のスライドの背景、色、フォント、位置などプレゼンテーションのテーマやレイアウトに関する情報を含むものである。各プレゼンテーションには、1 枚以上のスライドマスターが含まれ、スライドマスターを設定することで、他のスライドの表示が画一化される。この機能を利用すると、個々のスライドごとに表示条件を設定する必要はなく、大幅に省力化が可能となる。

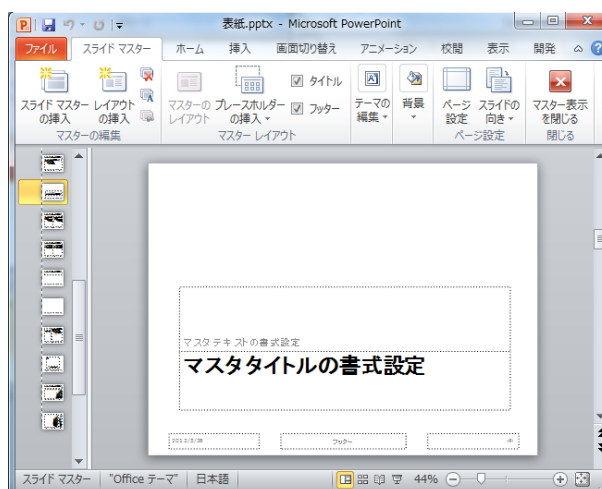


図 5-21 スライドマスターのタブとリボン

⑤ 配布資料マスターとノートマスター

これらのマスターもスライドマスターと同様に、配布資料とノートのテンプレートである。予めテンプレートとして、マスターを操作することで、配布資料あるいはノートについて共通の表示設定が可能となる。

5-2 コンテンツの作成

(1) テンプレートからの作成

「ファイル」から「新規作成」を選択する。図 5-22 に示すように、オフライン時のテンプレートとして、「新しいプレゼンテーション」、「サンプルテンプレート」などが選択可能である。これらのテンプレートから、背景を選択することができる。

さらに、office.com のオンラインのテンプレートに「PowerPoint のプレゼンテーションとスライド」のオプションがある。

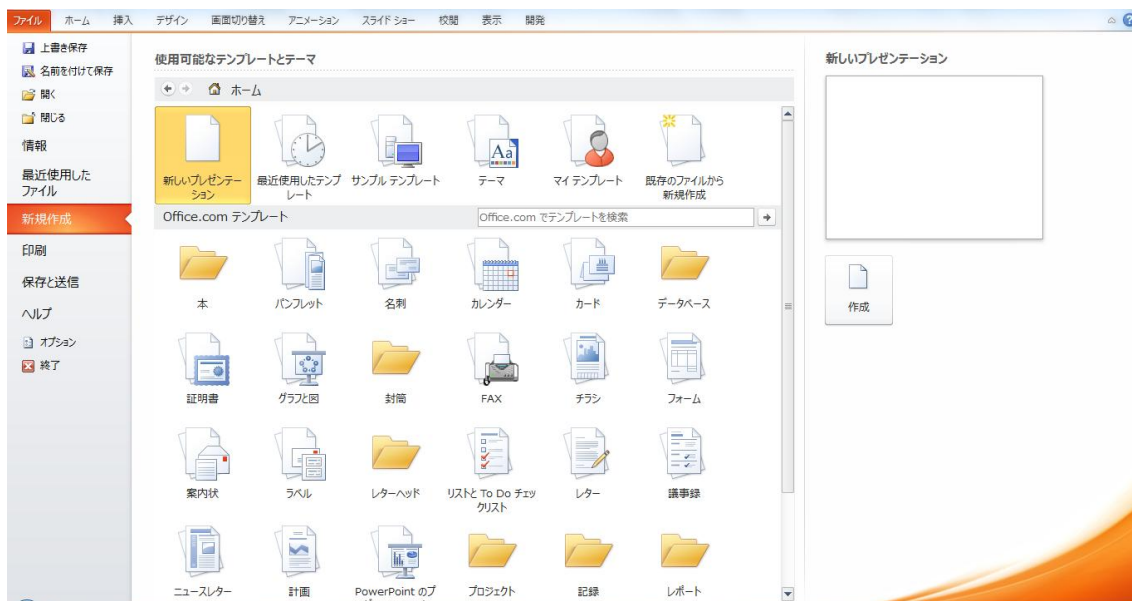


図 5-22 「ファイル」、「新規作成」から選択可能なテンプレート

図 5-23 に示すように、Power Point のプレゼンテーションとスライドの一覧が開かれ、「教育機関向けのプレゼンテーション」を選択する

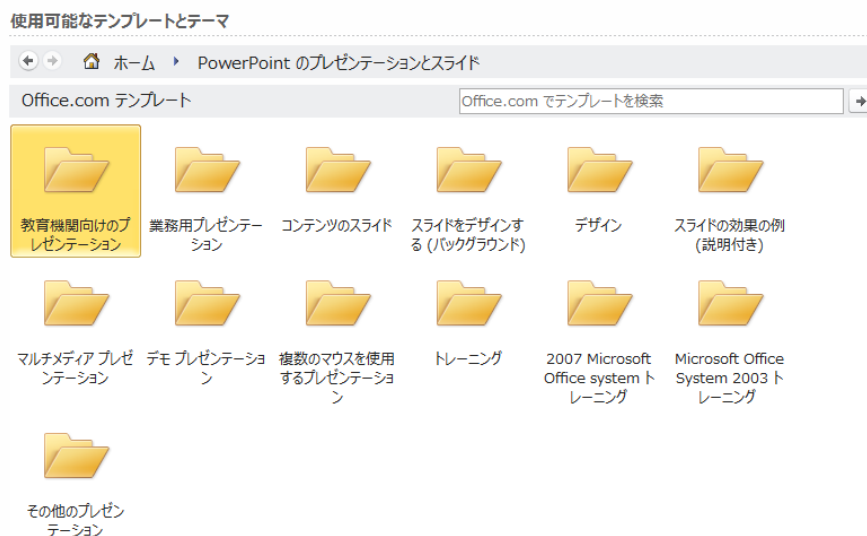


図 5-23 PowerPoint のプレゼンテーションとスライド

例えば、図 5-23 のように「学生用プレゼンテーション」を選択すると、このスライドのテンプレートがダウンロードされ、研究の流れに沿って入力可能なテンプレートが提供される。

使用可能なテンプレートとテーマ



図 5-23 教育機関向けのプレゼンテーションの「学生用プレゼンテーション」

(2) この結果、図 5-24 に示すように、研究発表に適した「学生用プレゼンテーション」のテンプレートがダウンロードされ、テンプレートに従って入力可能となる。

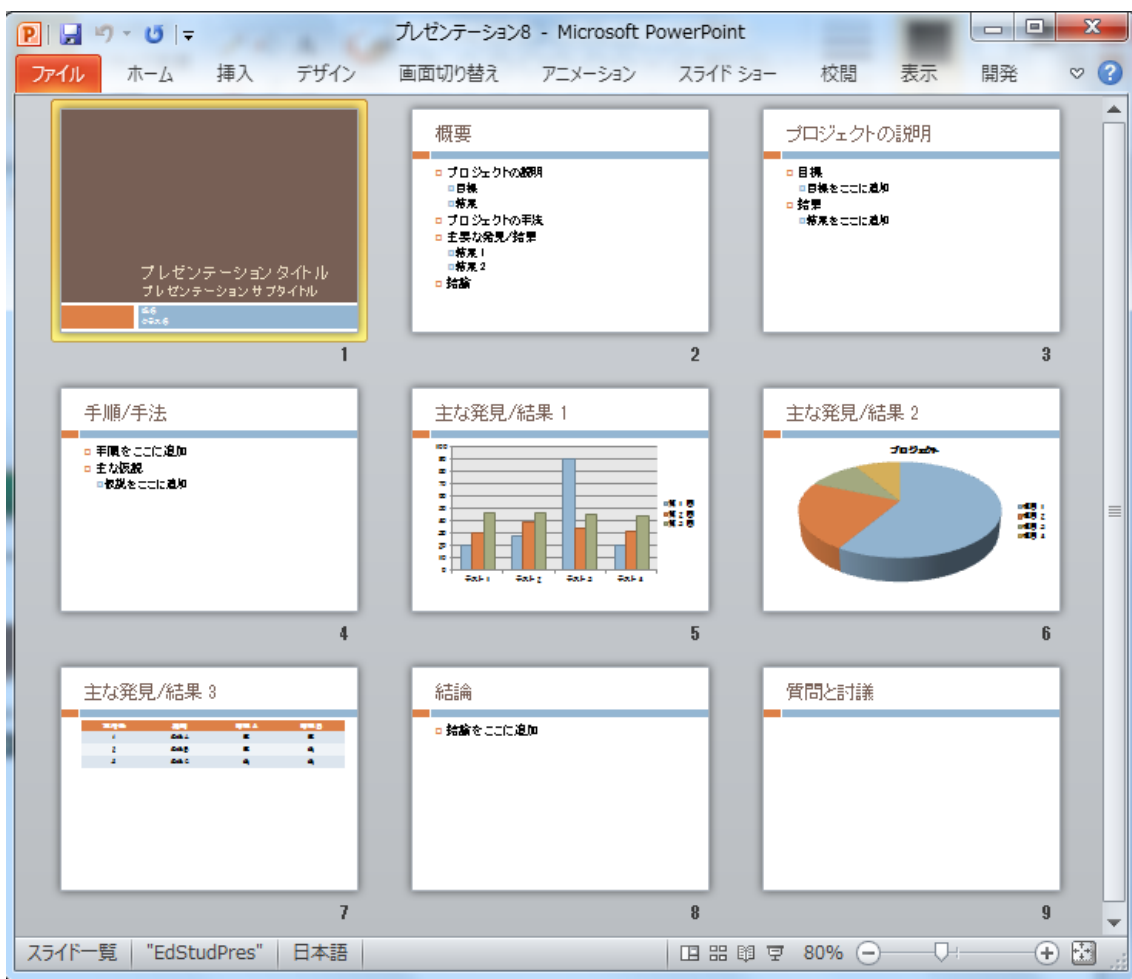


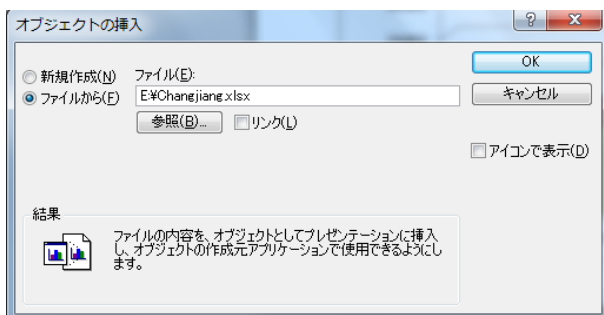
図 5-24 「学生用プレゼンテーション」のテンプレート

(3) オブジェクトの挿入

ワード、エクセルなどにおいて作成したコンテンツをスライドへ挿入することをオブジェクトの挿入と言う。挿入方法として、「埋め込み」と「リンク」の概念がある。

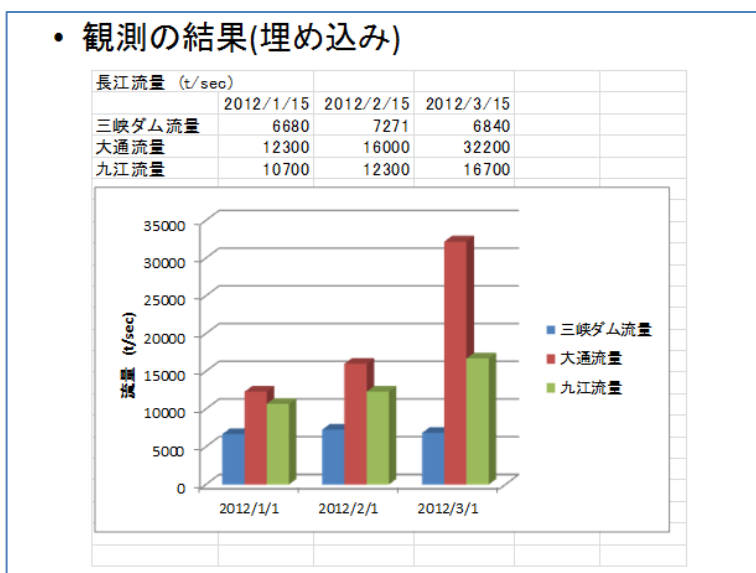
① 埋め込み

エクセルのグラフをスライドへ埋め込むときは、「挿入」タブから「テキスト」



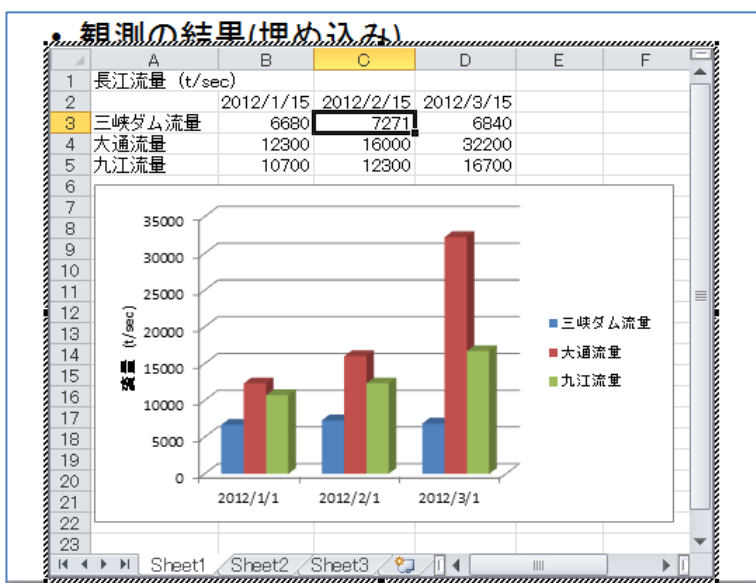
のリボンの「オブジェクト」を選択する。図 5-25 のようにオブジェクト挿入のウィンドウが開く。「◎ファイルから」をチェックし、「参照」を利用し、エクセルのファイルを指定する。

図 5-25 オブジェクトの挿入



この結果、図 5-26 に示すように、エクセルの表とグラフがスライドに埋め込まれる。このとき、次のリンクと異なり、スライド上にエクセルのデータ、グラフがコピーされる。

図 5-26 埋め込まれたエクセルの表とグラフ



スライド上の表あるいはグラフをダブルクリックすると、図 5-27 に示すように、スライド上にエクセルのシートが表示され、編集可能となる。ただし、ディスク上のファイルとのリンクがないため、修正結果はスライド上のみの記録となる。

図 5-27 埋め込みデータの編集

② リンク

埋め込みと同様の概念であるが、これは、ディスク上のファイルとのリンクをとり、スライド上にグラフを埋め込む方法である。図 5-28 に示すように、オブジェクト挿入のウィンドウにおいて、「◎ファイルから」と「☑リンク」を ON とする。

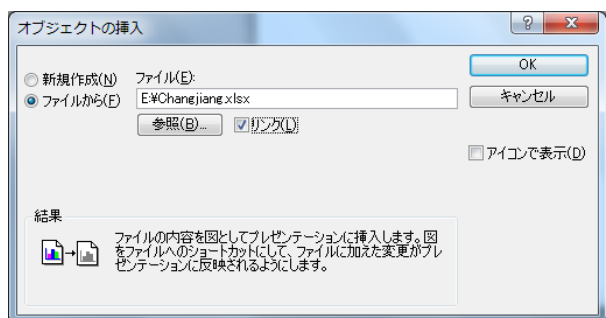
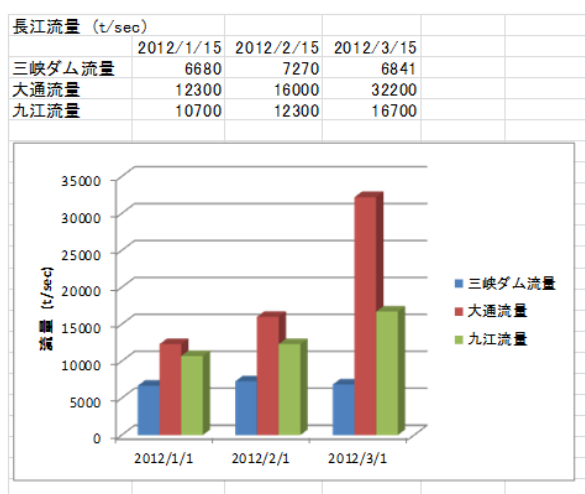


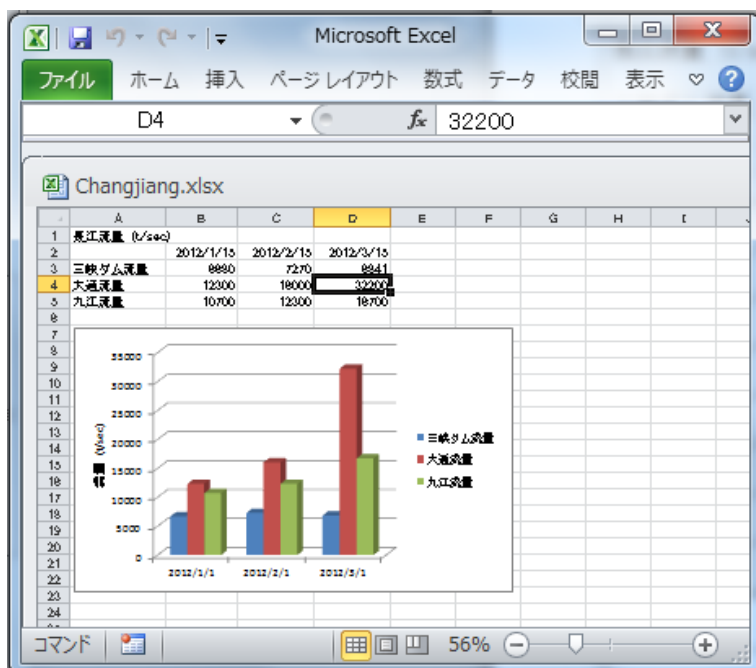
図 5-28 オブジェクトの挿入(リンク)

・ 観測の結果(埋め込み)



この結果は、図 5-26 と同様にエクセルのグラフが埋め込まれる。図 5-29 の外見は図 5-26 と同じである。

図 5-29 リンク付きで埋め込まれたエクセルの表とグラフ



スライド上の表あるいはグラフをダブルクリックすると、図 5-30 に示すようにエクセルの操作画面が開く。リンクが設定されているため、エクセルの修正結果は、参照したディスク上のファイルへ記録が残る。

図 5-30 リンク付き埋め込みデータの編集はエクセルから

5-3 書式設定

(1) スライドマスター

各スライド、配布資料などに共通なデザインを設定する機能が「マスター」として用意されている。マスターとしては、スライドマスター、配布資料マスター、ノートマスターを利用できる。ここでは、スライドマスターの利用方法について概説する。

① スライドマスターのデザイン

一連のスライドマスターにはタイトルの他、デフォルトのマスター画面があり、共通のレイアウト、背景などを任意にアレンジ可能である。このスライドマスターは、個々のスライドとは別に用意されており、スライドマスターのみの編集作業を行う。「学生用プレゼンテーション」を開き、図 5-31 に示すように、「表示」タブの「マスター表示」グループから「スライドマスター」をクリックする。

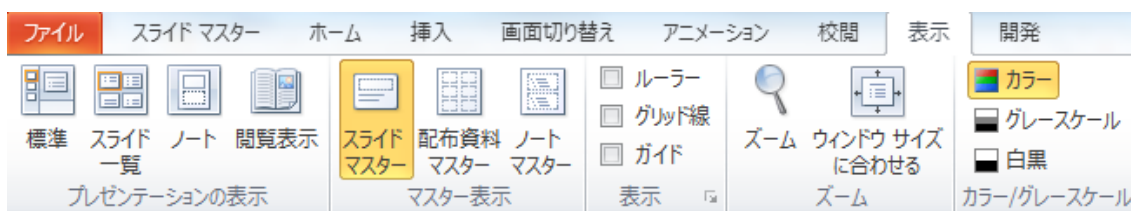


図 5-31 スライドマスターの選択

この結果、図 5-32 に示すように、「スライドマスター」のタブとリボンが開かれ、いくつかのマスター画面が表示される。スライドマスターは、スライドに共通して設定するデザインが用意されている。

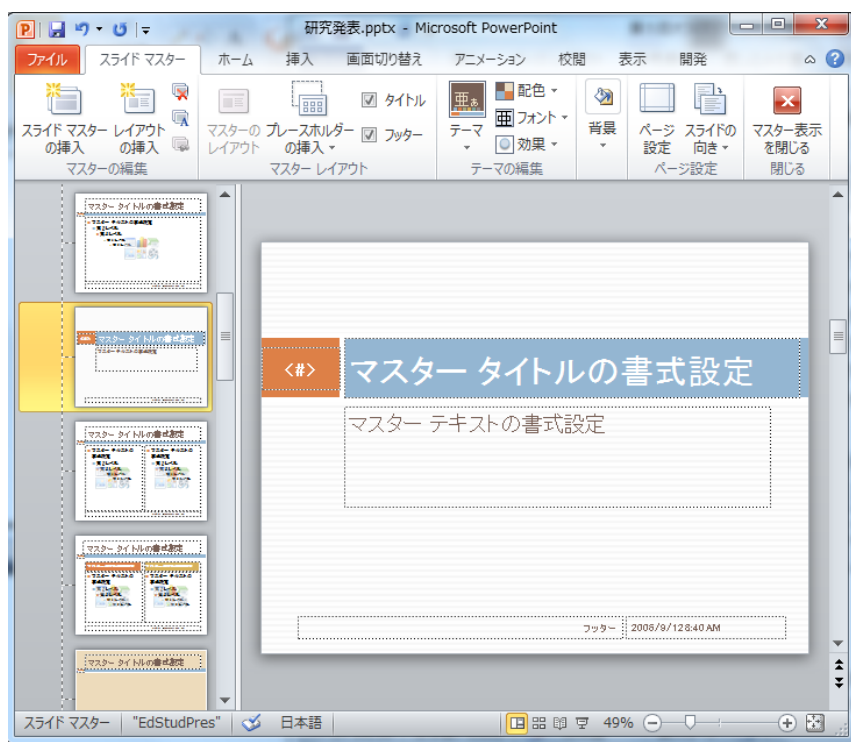
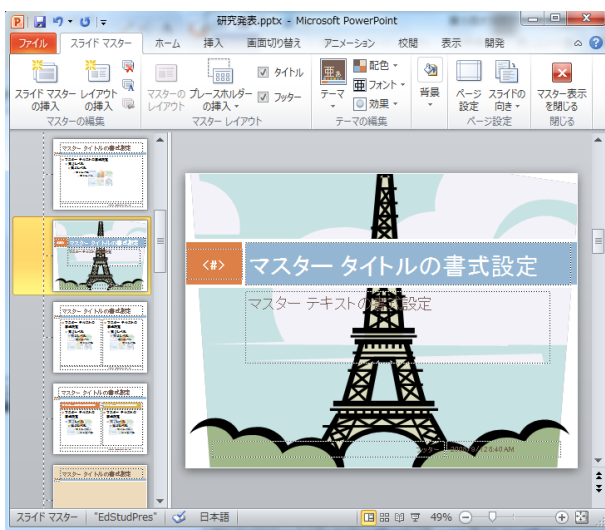


図 5-32 スライドマスター



例えば、図 5-33 に示すように、エッフェル塔のクリップアートをマスタータイトルの書式設定のスライドの背景として設定する。「スライドマスター」タブの「背景」ツールから、「背景のスタイル」、「背景の書式設定」、「クリップアート」を選択し、クリップアートの中からエッフェル塔を挿入する。

図 5-33 背景の設定

② スライドへのスライドマスターの適用

一方、スライド作成画面において、既存のスライドあるいは新規のスライドを選択し、右クリックから「レイアウト」を選択し、マスター画面から利用する画面を選択し、スライドに適用する。

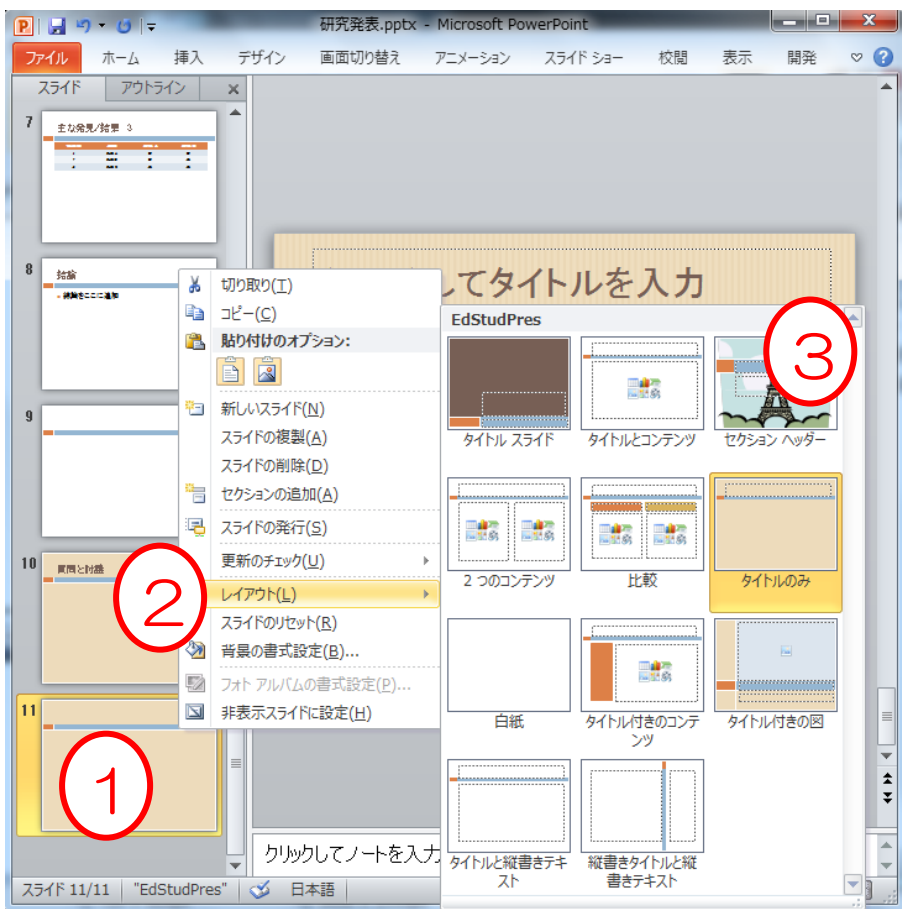
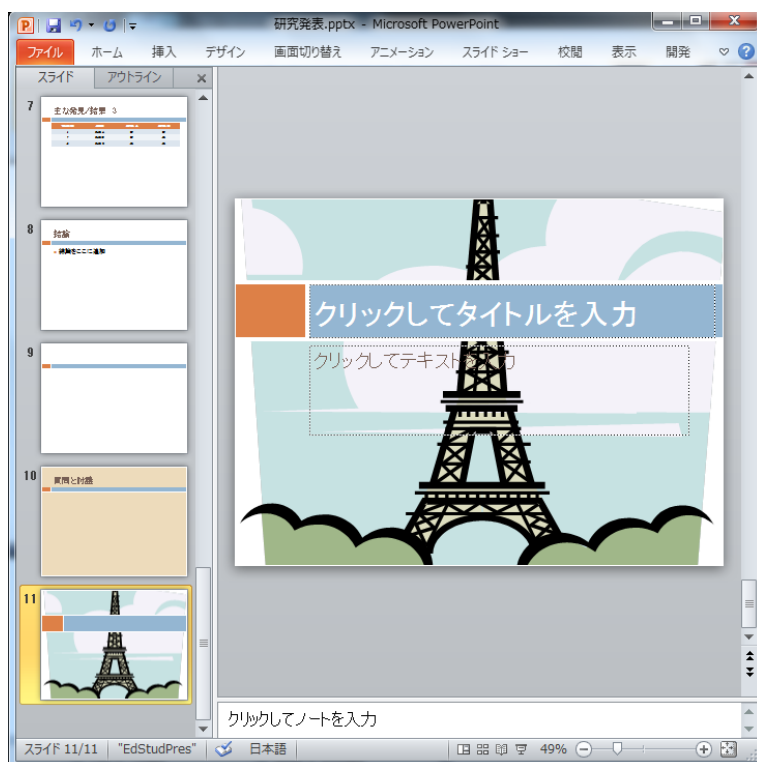


図 5-34 の「①」に新しくスライドを追加する。さらに、右クリックを押すと、スライドに対する作業メニュー「②」が表示される。作業メニューから「レイアウト」を選択すると、図 5-33 において作成を加えたスライドマスターが表示される。「③」のマスターを選択する。

図 5-34 スライドへのスライドマスターの適用



この結果、図 5-35 に示すように、新たに挿入したスライドへ、選択したスライドマスターのデザインが適用される。

スライドに合わせ、スライドマスターを適用しよう。

図 5-35 スライドマスターが適用されたスライド

(2) 画面の切り替え

スライドショーによるプレゼンテーション時に、画面の切り替え効果を利用し、スライドを切り替える効果、速度、サウンドなどを組み合わせ、効果的なスライドショーを実現できる。

① 画面切り替えタブとリボン

図 5-36 に、「画面切り替え」タブとリボンの図を示す。画面切り替えの形式と、「サウンド」、「継続時間」、「すべてに適用」、「画面切り替えのタイミング」などのツールが表示される。

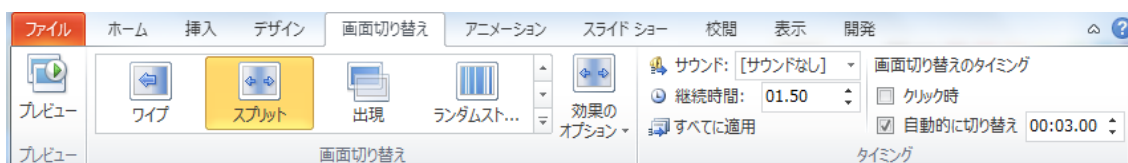


図 5-36 画面切り替えタブとリボン

② 全てのスライドに適用

例えば、設定するスライドを編集状態とし、図 5-36 に示すように「画面切り替え」から「スプリット」を選択すると、該当するスライドの表示がスプライト表示される。「プレビュー」をクリックすることで、画面切り替えの設定を確認できる。また、「すべてに適用」をクリックすると、「スプリット」の画面切り替えが全てのスライドへ適用される。

③ サウンドの設定

このサウンドの設定は、画面切り替えのタイミングで流れる音である。標準では「サウンドなし」の設定である。研究発表などでは、「サウンドなし」の設定が一般的である。その他のプレゼンテーションでは、場所に応じてサウンドの選択を設定すること。図 5-37 に示すように、「ウインド」、「カメラ」、「キャッシュレジスタ」などのサウンドの選択が可能である。

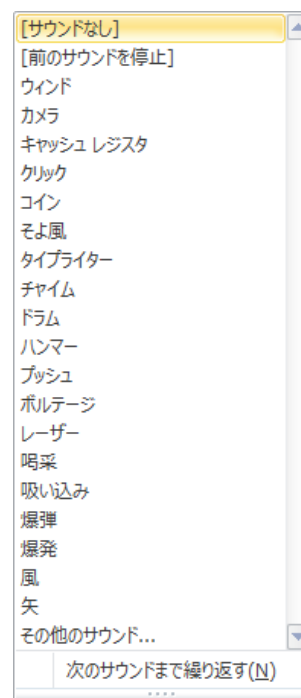


図 5-37 サウンドの選択肢

④ 切り替えのタイミング

図 5-36 に示すように、「タイミング」ツールの「画面切り替えのタイミング」に、「クリック時」と「自動的に切り替え」の二者択一である。クリック時の設定がデフォルトであり、〔スペースキー〕、〔▶(カーソルキー)〕のクリックのタイミングで次のスライドへ切り替えられる。

自動切り替えでは、設定時間間隔でスライドが切り替えられる。図 5-36 の設定では、3 秒ごとにスライドが切り替えられる。

(3) アニメーション

図 5-38 に「アニメーション」タブとリボンのツールを示す。前節の画面切り替えと異なり、スライドの中のパーツ(部品)ごとに見え隠れの動作設定を行う。

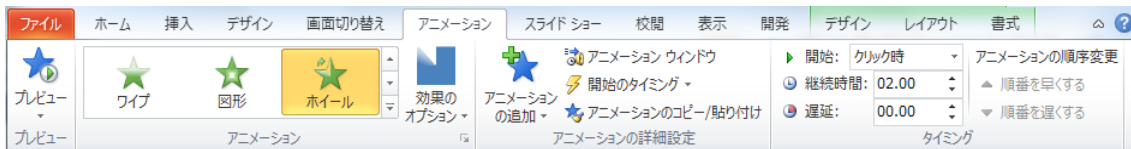
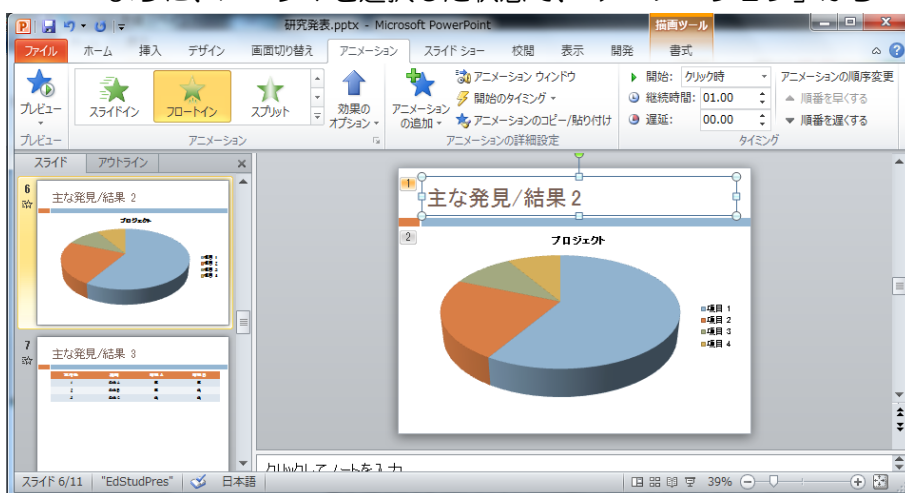


図 5-38 「アニメーション」タブとリボン

① パーツ1の設定

スライドタイトルの「主な発見/結果2」をパーツ1とする。図 5-39 に示すように、パーツ1を選択した状態で、「アニメーション」から「フロートイン(浮上表示)」を設定する。

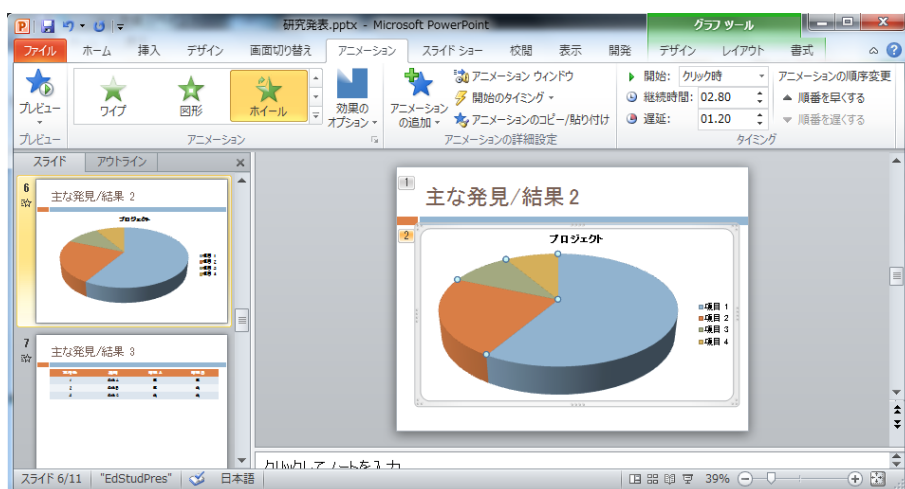


スライド開始と同時に、パーツ1のタイトルが表示される。

図 5-39 パーツ1の設定

② パーツ2の設定

スライドの円グラフをパーツ2とする。図 5-40 に示すように、パーツ2を選択した状態で、「アニメーション」から「ホイール(回転表示)」を設定する。



スライド開始されると、パーツ1が表示され、パーツ2が続いて表示される。

図 5-40 パーツ2の設定

③ アニメーションのタイミング

「アニメーションの詳細設定」から「アニメーションウィンドウ」を選択する。
図 5-41 に示すように、ウィンドウの右側にアニメーションウィンドウが表示される。ここでは、アニメーション表示の順番、表示時間などの設定が可能である。アニメーションウィンドウの「再生」をクリックすると、アニメーションが再生され、設定を確認することができる。

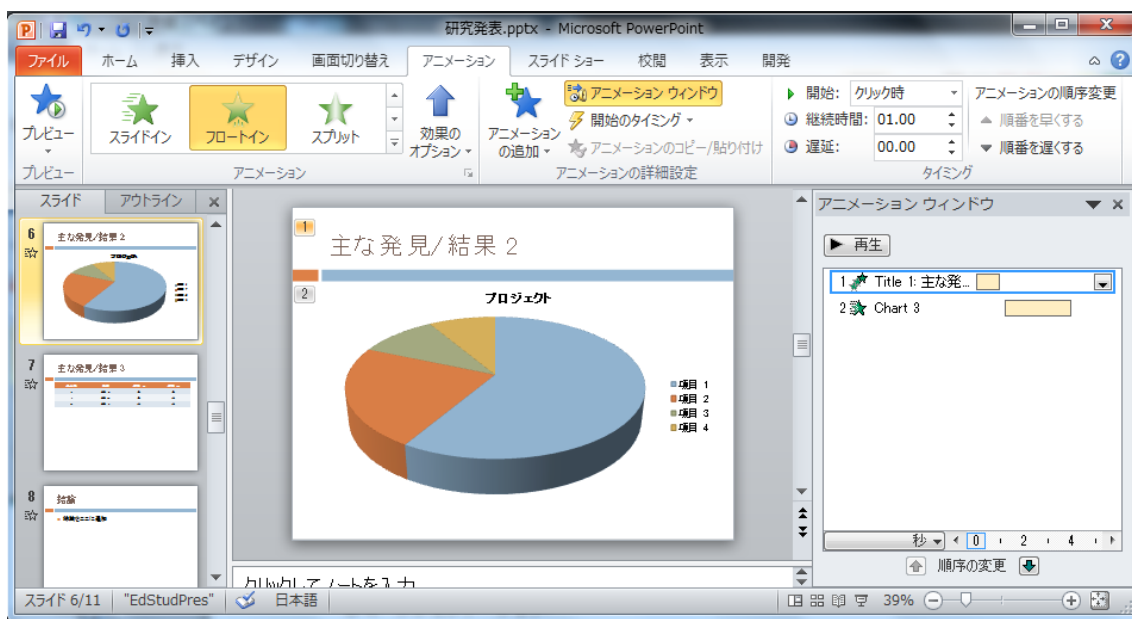


図 5-41 アニメーションのタイミング設定

5-4 プレゼンテーション

(1) スライドショーの設定とプレゼンテーションの実行

図 5-42 にスライドショーのタブとスライドショーのツールを示す。

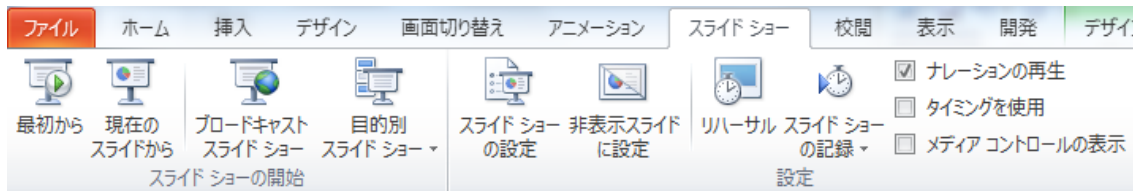


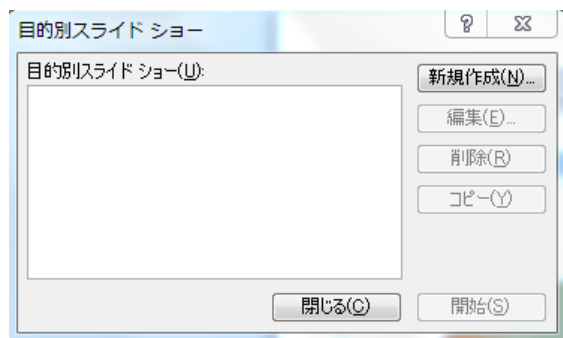
図 5-42 スライドショーの設定のツール

① ブロードキャスト・スライドショー

Web ブラウザを利用し、リモートの閲覧者に対して、スライドショーをブロードキャストするサービスである。このサービスを利用するためには、Windows Live ID が必要である。

② 目的別スライドショー

目的別スライドショーは、一つのスライドショーの中から目的別にスライドを選択し、目的別のプレゼンテーションを行うための機能である。図 5-42 の「目的別スライドショー」をクリックすると、図 5-43 の目的別スライドショーのウィンドウが開き、新規の目的別スライドショーあるいは既存の目的別スライドショーの編集等ができる。



別スライドショー」をクリックすると、図 5-43 の目的別スライドショーのウィンドウが開き、新規の目的別スライドショーあるいは既存の目的別スライドショーの編集等ができる。

図 5-43 目的別スライドショー

図 5-43 の目的別スライドショーから「新規作成」を選択すると、目的別スライドショーの構成が可能である。図 5-44 に「編集」の例を示す。左側のスライド一覧から、右側の目的別のスライド一覧へ編集可能である。

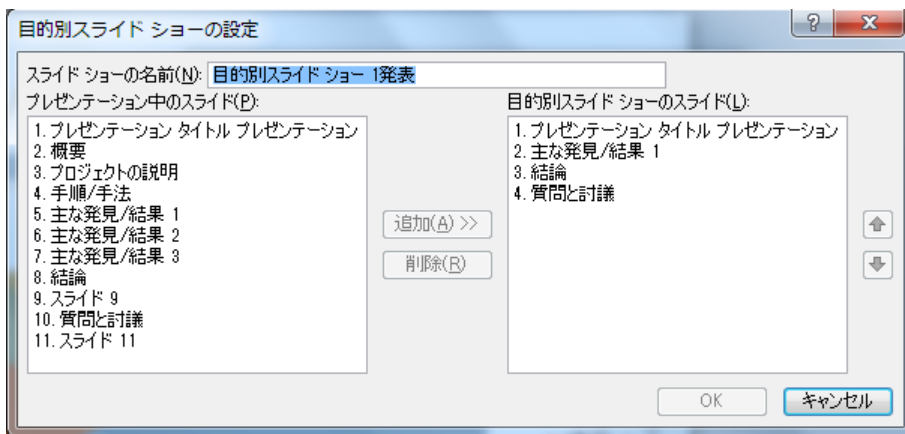


図 5-44 目的別スライドショー一例

図 5-44 目的別スライドショー一例

実際には、図 5-45 に示すように、「スライドショー」タブから「目的別スライドショー」をクリックすると、登録済みの目的別スライドショーのリストが表示され、

選択的にプレゼンテーションが可能である。

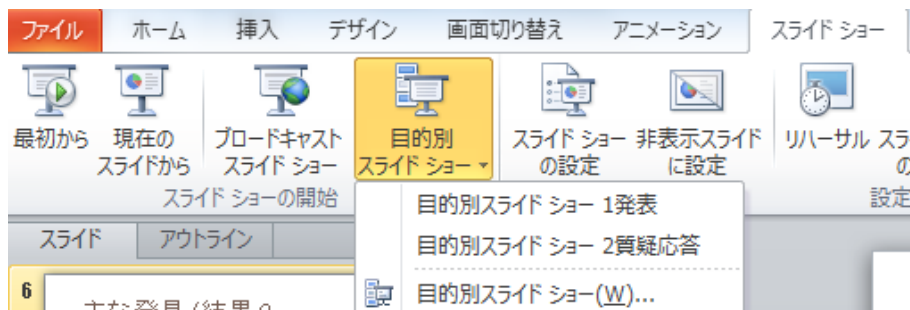


図 5-45 目的別スライドショーの選択

③ スライドショーの設定

「スライドショー」タブから「スライドショーの設定」をクリックすると、図 5-46 に示すように、プレゼンテーションの種類、繰り返し、ナレーション、アニメーションのオプション、スライド表示の選択、スライドの切り替え方法、モニターの選択など、スライドショーの設定が可能である。

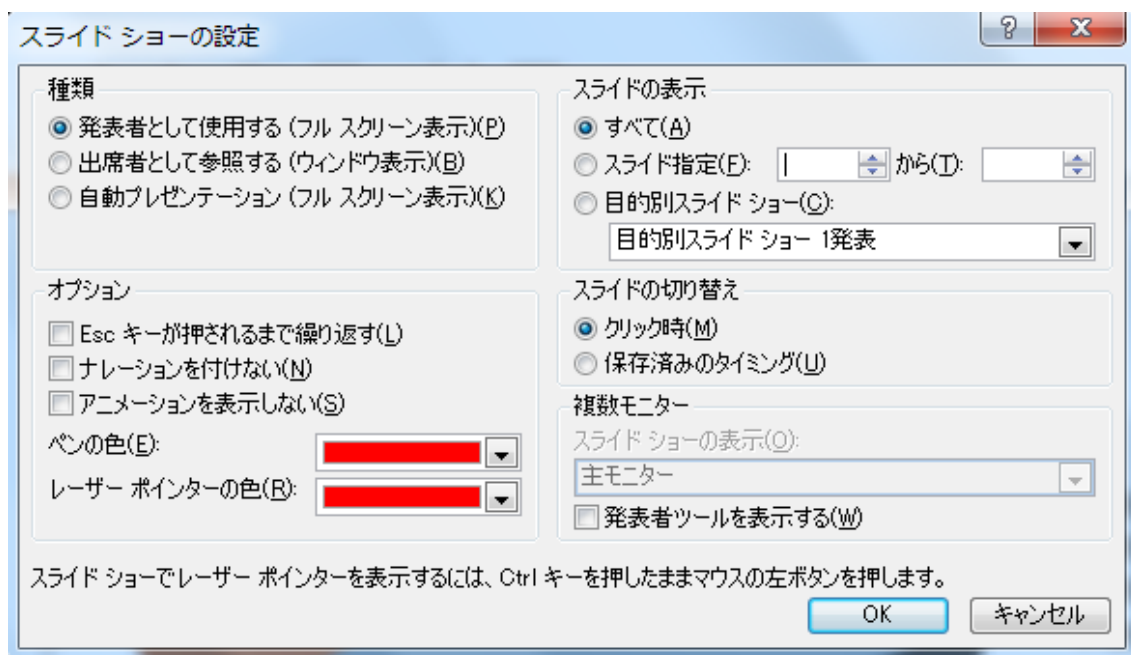


図 5-46 スライドショーの設定

④ 非表示スライドに設定

一連のスライドから、一部のスライドを選択的に非表示とするための機能である。

(2) タイミングのリハーサル、録音

図 5-47 に示すように、「スライドショー」タブには、「リハーサル」、「スライドショーの記録」、スライドショーの動作設定のオプションが用意されている。

① リハーサル

「リハーサル(発表練習)」をクリックすると、タイマーが起動し、各スライドごとのプレゼンテーション時間が記録される。リハーサル後、リハーサルのタイミングを使用し、プレゼンテーションが可能である。

② スライドショーの記録

図 5-47 に示すように、「スライドショーの記録」を選択すると、ナレーションを、スライドの先頭から、あるいは現在のスライドから録音可能である。録音されたナレーションにより、プレゼンテーションが可能である。

③ メディアコントロールでは、スライドショーとは別に録音されたオーディオ、あるいは、ビデオの再生が可能である。

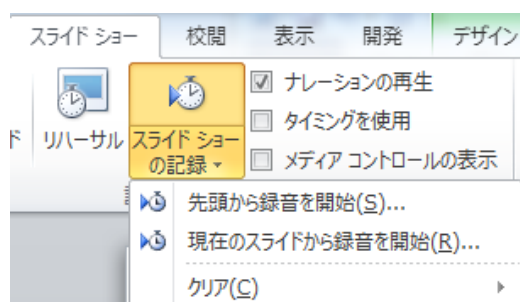


図 5-47 スライドショーの設定ツール

(3) 配布資料などの印刷

スライドショーを、一ページにつき 6 枚、あるいは、3 枚などの配布資料、あるいは発表メモ用のノートの印刷が可能である。図 5-48 に配布資料(左)とノート(右)のイメージを示す。配布資料は聴衆へ配布する。ノートは、各自の手持ち資料とする。

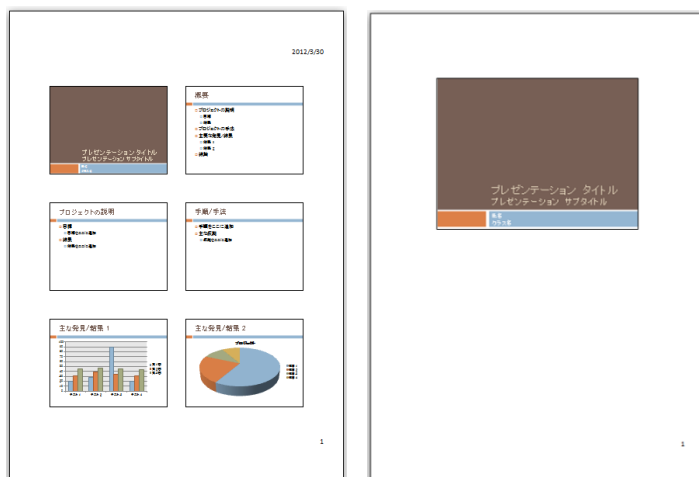


図 5-48 配布資料(左)とノート(右)

課題 自分の町、県、国のいずれかの紹介用のパワーポイントのスライドを作成せよ。

- ① 5-2 のコンテンツの作成に示したように、「ファイル」、「新規作成」、Office.com の「プレゼンテーション」、「教育機関向けのプレゼンテーション」、「プレゼンテーション資料(国に関するレポート)」をダウンロードする。
- ② 図 5-49 に示すように、国に関するレポートのテンプレートが表示されるので、「あなたの国」を「私の国」、「私の故郷」、「私の町」と変更する。
- ③ テンプレートの中から5つのスライドを選択し、地図、写真などを挿入し、スライドを作成すること。
 - ・ タイトルページ（学籍番号、氏名を記入）
 - ・ (あなたの国)の場所
 - ・ (あなたの国)の地理的な特徴
 - ・ (あなたの国)の気候
 - ・ (あなたの国)の環境
 - ・ (あなたの国)の歴史
 - ・ (あなたの国)の慣習や伝統
 - ・ (あなたの国)の政府
 - ・ (あなたの国)の経済
 - ・ (あなたの国)の観光案内

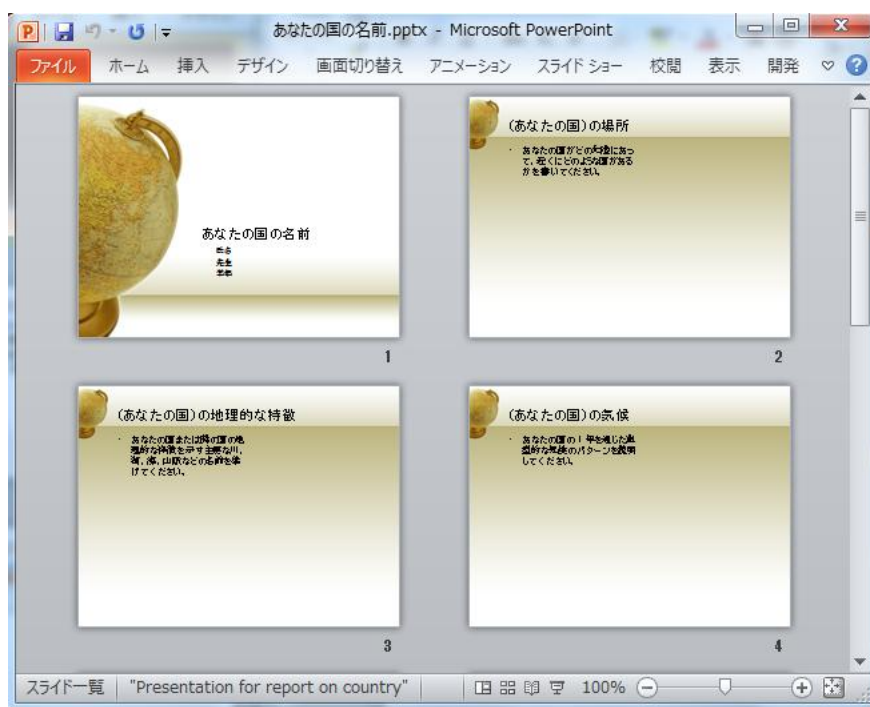


図 5-49 (あなたの国)の紹介テンプレート